おみやげ開発　concept「神社」
ーとおくを想うー

紙・デジタル出力・和菓子
w100×d100×h25mm
w200×d100×h25mm

矢木 麻美
Yagi Asami
デザイン情報コース

「とおくを想う」をコンセプトに、デザイナーのみなさんと並走して商品開発を行いました。「土産」のルーツである「宮笥（みやけ）」から日本のおみやげ文化の原点が寺社詣でにあることを発見し、それを高岡で活かそうと考えたのが今回の提案です。名勝地である雨晴海岸を神社に見立て、雨晴神社という架空の空間を想定しました。ご神体は海上の立山連峰です。併せて、北陸地方に伝わる立山信仰を神格化したものとして立山曼荼羅が安置されています。雨晴で先人の信仰を想い、対岸の立山を仰ぎ見ることによって目前の日常から解放され「とおくを想う」ことができる。そして、そこに供物として供えられた和菓子をおみやげとして持ち帰る。これは雨晴での体験、更に文化そのものを持ち帰ってもらうことになるのではないでしょうか。過去から現在にかけておみやげの意味は変容してしまったように見えますが、本質的にはなんら変わっていません。そこには旅による心の安らぎと、体験や文化を持ち帰り分かち合うことによって生まれる、感動の共有があるのです。